

「カムカムエヴリバディ」撮影期間中の感染対策について

2021年7月28日修正版

ドラマ番組の制作の現場には、数ある番組のなかでも特に多くの出演者、スタッフが参集します。ソーシャルディスタンスを保ち、「3密」を避けることは大前提ですが、準備や収録の過程では、どうしても密接や接触を避けられない局面が発生します。そうした中で起こり得る感染リスクを徹底して回避し、クラスター（集団感染）を発生させないという強い覚悟と周到な準備が、現場のあり方として最も重要なポイントとなってきます。

緊急事態宣言が解除されても依然、新型コロナの感染リスクは続きます。こうした中において、何よりも最優先されるのは出演者・スタッフの皆さんの健康と安全です。感染予防対策の徹底により、すべての出演者・スタッフ・関係者が安心して撮影に集中できる環境を確保するために、【対策の柱】【原則対策】【個別の対策】の3つを掲げます。

すでにコロナ禍でのドラマ撮影に携わって来られたスタッフの方々は、十分気を付けてこられたことかもしれません。けれど、油断は大敵です。BK制作部のルールをもとに、「カムカム班」での運用についてまとめた以下のルールについて共有いただき、その徹底をお願いします。

また、コロナの感染状況も今後さまざまに変化し、新たな課題が出てくる可能性があります。そうした場合には、改めて各部と協議し、改善すべきことや新たな問題点を見つけ出します。忌憚なく意見交換でき、安心安全な撮影環境を整えることが出来るチームづくりを目指します。

NHK大阪拠点放送局コンテンツセンター3部（ドラマ） CP 堀之内礼二郎
櫻井 賢

【対策の柱】

① 出演者・スタッフの感染予防対策と健康状態確認の徹底

「不特定多数の人が接する場所との接触」と「近接の会話」に気をつけることで、リスクの大部分は減らせます。また感染を防ぐための最大の武器は、こまめな「手洗い」「手指消毒」と「マスク着用」です。「毎日検温」も必須です。

② 3密防止対策の徹底

できる限り少ない人数で、できる限り短い時間に、できる限り安全な距離を確保します。

③ 出演者、外部の関係者に対しては、事前にNHKの対策を説明し、本人の同意を得ます。その際、NHKの都合を無理強いすることがないように、十分に配慮します。

④ 県を超えてのロケハンや収録は取材先、出演者、関係者の同意のもと、当該地域局に必ず事前に連絡、相談。感染防止対策を徹底し、必要最低限の範囲であることを確認の上実施します。

⑤ 自分が触れるものは自分で消毒する、物品の共有をしないなど、一人ひとりが責任を持って感染リスクを回避する行動をとります。スタッフはもちろん関係者出演者にもお願いします。

⑥ 新型コロナウイルスは誰もが感染したり、感染させたりする可能性があります。感染した人が「悪い」訳ではありませんので、体調が優れない人は躊躇せずに声をあげてください。

⑦ この対策でも解決できないことが起こったときは、専門家に相談の上、医学的見地に立って判断し、対処します。

【原則対策】

1. 体制

- 番組の制作統括を、番組の感染症対策責任者とします。
感染症対策責任者は、当該ルールの確実な実行を基本とした感染防止管理を統括します。感染症対策責任者が感染のリスクが高いと判断した場合は、収録の中止や演出の変更、スタッフや出演者の現場離脱を要求することができます。
- 感染症対策責任者または各部（制作・美術・技術・音響効果）の管理職または現場チーフは、各部ごとに感染症対策担当者を決め、感染症対策責任者と連携をとりながら感染防止の対応にあたります。
- 感染症対策責任者は、各部とルールの共有を図り、またすべての出演者、スタッフに対して、ルールを周知します。
- 収録を進めるなかで、当該ルールでは解決できないことが発生した場合は、監修者または専門家の意見を求めた上で、感染症対策責任者が適切に対応します。

2. 関係者の健康（健康管理）

- 出演者およびスタッフは、過去1週間以内に新型コロナウイルス感染症を疑わせる症状（発熱、咳、咽頭痛、息苦しさ、全身のだるさ、下痢、味覚・嗅覚異常など）があった場合には、必ず申告してください。PCR・抗原検査が行われていない場合には、発症日を0日とし発症後8日経過するまで、および解熱剤を服用していない状態で解熱日および症状消失日を0日として3日経過するまで、参加を見合わせます。
- 出演者およびスタッフは、毎日検温して、発熱がないことを確認します。
- 各担当のチーフは、業務開始時にスタッフに声掛けするなど、体調確認を行います。
- 出演者およびスタッフは、検温や点呼で体調不良が明らかな場合には、業務への参加を中止し、受診等の必要な対応を行います。
- 責任者、各部担当者、各チーフは、収録に参加する全員のメンタルヘルスに留意します。万が一感染が疑われる症状が出ても、体調や疲労の具合などを遠慮なく言える雰囲気をつくること。誰もが感染する可能性があり「迷惑をかける」などと決して思わせないこと。
- 糖尿病、心不全、呼吸器疾患等の基礎疾患がある人など、感染後に重症化するリスクが高い人が撮影に参加する必要がある場合には、そのリスクを現場スタッフと共有し、業務遂行においては最大限慎重に進めます。
- スタッフ・出演者等が海外に渡航した場合、2週間、撮影に参加しないようにします。

3. 関係者の行動（作業管理）

- 公共交通機関を使うスタッフは、出来る限りラッシュ時を避けた出勤を可能とするスケジュールとし、必要に応じて、近隣のホテルへの宿泊なども制作費で対応します。
- 新型コロナへの免疫力が落ちることを防ぐため、早朝から深夜におよぶような長時間収録を意識的に避けます。

- 全部署において、できる限り現場の人数を減らす工夫を常々心がけます。
- 打合せおよび業務は、他の出演者およびスタッフとの間で、密になることを避け、部屋の出入り時には、「手指の消毒」「マスク着用」を徹底します。この基準は喫煙室、食堂、控室、休憩場所においても準用します。特に食事しながらの会話は避けます。
- 出演者およびスタッフは全員マスクの着用を基本とします。ただし出演者は、メイクの崩れ防止の観点から、扮装開始から、その日の収録を終えて扮装をはずすまでは、マスクの代わりにフェイスシールドの着用のみでも可とします。また出演者に近づくスタッフは、マスクに加えフェイスシールドを着用します。尚、屋外でマスク着用による熱中症などのリスクがある場合は、人との距離を十分にとった上でマスクをはずして休憩するなど、体調管理にご注意下さい。
- 消毒用アルコールを各部屋の入口付近、喫煙所入口付近にも設置し、部屋の出入りの際、飲水前、喫煙前に手指消毒を実施します。喫煙所付近で消毒用アルコールを使用する場合は、引火に気を付けましょう。
- 洗面台がある場所には洗剤を配置し、出演者およびスタッフは、可能な限り、手洗いを心掛けます。手拭き用タオルの共用は避けます。
- 複数の出演者およびスタッフが触れる備品、ドアノブ等は、常に消毒します。
- 共用で使用するものを可能な限り減らしましょう。
- 子役等、ルールを理解して、確実な順守ができない出演者の場合には、個別の管理者を付けます。
- 他人の携帯・スマートフォンなどの機材を使わない・触れない。
- スタジオは、出来る限り清潔に保ち、スタッフ・出演者が、気持ちよく過ごせるように、総務部とも連携して、専門のスタッフによって、スタジオ周辺の清掃はこまめにすすめる。

【個別の対策】

1. (打合せ)

- すべての打合せはTEAMSを活用します。会議形式で行う場合、できる限り少人数で行い出席者との間隔を空けます。すべての出席者は「マスク着用」の上、「手洗い」「手指消毒」を徹底します。
- 技術打合せ、美術発注などを会議形式で行う場合は、出来る限り必要な人数に絞り、他のスタッフはTEAMSによる参加とします。

2. (扮装・スタンバイ)

- 出演者のフェイスシールドは、支度場入りした際、制作スタッフより、感染予防グッズとともにお渡しします。原則、出演者個々で管理いただき、出演者本人以外は、直接フェイスシールドやマスクに触れないように徹底します。使用前使用後の消毒も、出演者本人にて行っていただきます。
- 衣裳部屋に複数の出演者（エキストラを含む）を入れて、着替えは行わないようにします。ま

た、メイクやかつらを乗せる作業は、他の出演者と間隔を十分あけて行います。どうしても間隔がとれない場合はパーテーションなどを利用して仕切ります。

- 可能な場合は衣裳やメイク、持道具の装着は出演者本人のみで行い、各担当者が最終確認をするのが望ましい。
- メイク・かつら・ピンマイクをつける音声のスタッフはマスクを着用したうえにフェイスシールドを着用することを基本とします。また、作業を行う直前に、出演者が目視・確認できる場所で手指の消毒を行います。手袋を使用する場合も同様に消毒します。
- メイクやかつらの道具は出演者ごとに別のものを使用します。どうしても、使いまわす場合は使用ごとに消毒を徹底します。
- 扮装部は、支度場で出演者が手にする箇所について、開始前に消毒をお願いします。必要な消毒液などの補充は、制作部がサポートします。消毒作業のため、通常より早朝の出勤が必要になる場合は、制作部にて近隣のホテルを確保します。なお、スタジオ周辺や前室にて、スタッフ出演者が触れる箇所については、担当週のSDが開始前に消毒を行います。
- 扮装部はドライ、テストで映像チェックをする場合、スタジオ外、前室のモニターで行います。スタジオでの直しは本番前のみ行います。出演者と近接して業務にあたる扮装部は、メイク直し前に毎回、手指消毒を行い、マスクとフェイスシールドを着用し、出演者に不安を与えないよう配慮します。
- 多数のエキストラが出演する場合は、十分なスペースのある待機場所とメインキャストとは空間を分けた支度場所を確保。スタジオ前に多人数が溜まらないようにします。エキストラの誘導や運用は、SDが対処。多人数が参加する際には、制作部が支援します。
- 椅子やソファは、対面式を避け、同一の方向を向くような配置とします。
- 使用済みフェイスシールド、マスク、手袋などはビニール袋にいれ可燃ゴミとして廃棄します。
- 衣裳や持ち道具など、身に着けるものは、利用の都度、必ず消毒や洗濯を徹底します。

3. (副調整室)

- 作業するスタッフが2メートルの距離を確保できない場合、フェイスシールドや飛散防止シートなどを利用して飛沫の飛散を防ぎます。飛散防止シートなどは、開始前終了後、各自で、使用する範囲を消毒し、互いに気持ちよく使用できるよう心がけます。
- 一度に副調整室に入る人数はできる限り少なくし、換気のために常に出入り口を開放します。

4. (スタジオセット)

- セットは換気ができる設計とし、四方を囲んだセットにしないようにします。
- 四方を囲む必要がある場合は、送風機で空気の流れを作るなど、換気を行います。
- セットの配置はスタジオ内で人が密集しないようレイアウトします。また動線や作業スペースを広くとり人と人との接触を避けます。
- 建て込み時に多人数を稼働させないような設計をします。

5. (ロケ制作について)

- 都道府県をまたぐロケハン、下見、ロケについては、自治体ごとの指示や、当該地元放送局が定めた個別ルールに従います。このためロケのみならず、ロケハン、下見段階でも、事前に当該放送局に連絡を入れます。
- 美術下見、技術下見は人数を限定して行います。各担務で複数のスタッフの参加はしないように工夫します。
- ロケバスには乗車定員を設けます。2名掛けのシートには1名のみ座ることを基本とします。
- ロケバスは密閉せず、走行中に窓を最低2カ所開けるようにします。常にエアコンの設定を外気導入にセットして換気を行うとともに、最後方部の窓を少しあけて排気を行います。接触感染を防ぐため、多くの人の手が触れる部分は乗車前に消毒を行います。
- 車内でもマスク着用です。乗車と降車の際には手洗い・消毒を行います。
- 移動中は、緊急に必要なこと以外はしゃべらないようにしましょう。
- 原則として貸切が可能なスペースでのみロケを行います。
- 公道や一般の方の見物が可能な場所でロケを行う場合には、地元住民を不安にさせるような密な撮影はやめましょう。一般の人が集まりやすい場所でのロケは原則として控え、撮影協力いただく地元の方々や関係者と連携して、誰が見ても安心安全な撮影を心がけます。
- ロケの前後、制作担当者は、必要に応じてロケ先の担当者の指示または許可のもと、借用した場所の消毒を行います。
- 弁当及び箸、スプーン等は個々に包装されたものを用意し、飲み物は缶やペットボトルのものを用意します。

6. (収録・演出等について)

- 出演者・エキストラとも、テストまではマスクまたはフェイスシールドを着用します。
- 出演者同士の距離は、十分に保ちます。但し、接近する芝居が避けられない場合は、そのリスクを認識し、最大限の安全対策を行うとともに、必ず出演者の同意を得ます。関連ショットを最小限にし、短時間での撮影を目指し、本番後は速やかに出演者にうがいや手洗いを励行します。そのために発生する出演者のメイク直しの時間などは、収録スケジュールに入れ込み、無理のない進行を心がけます。集団感染(クラスター発生)リスクを回避する強い意識をもって撮影に臨みます。

(参考：厚労省HPのQ&Aより)

- 濃厚接触かどうかを判断する上で重要な要素は二つあり、1.距離の近さと 2.時間の長さです。必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離(1m程度)で15分以上接触が合った場合に濃厚接触者と考えられます。
- エキストラについても、扮装時やスタンバイ時に3密にならないことを徹底します。収録時も、テストまではマスク着用を徹底し、マスクは各自で管理。本番が終われば、すぐにマスク着用を促し、待ち時間の間も密にならないよう、現場SD陣が、丁寧にお声掛けします。
 - 現場助監督の指示のもと、本番前に出演者は自分でフェイスシールドを外し、各自のネームが入った袋にフェイスシールドを入れ、指定の保管場所に置きます。大人数などの場面や保

管場所までの移動が困難な場合には、フェイスシールドの袋入れと保管のサポートをする人員を配置します。

- メイク崩れ予防やテスト時の照明確認のため、扮装後の出演者にはフェイスシールドの着用を求めます。ただし、安全を確保するため、本番以外ではフェイスシールドよりマスクを着用したいと求める出演者の意向は尊重します。こうした個々の要望には真摯に対応し、そのことを、演出部、扮装部、現場スタッフ、制作部にて共有します。また、マスク脱着後のメイク直しの必要性がどこまであるかなど、演出部も交え判断し、ご本人にも現場にもストレスの少ない運用を目指します。
- インカムなどの共用機材は担当週ごとに個人管理。開始前終了後、各自で消毒します。
- 道具の共有化を極力やめて、個人で持参するようにします。
- チェック用にモニターを今まで以上に準備します。モニター前にスタッフが集まって密な状態を作らないよう工夫します。
- 消え物を扱うスタッフは限定し、食器類は本番直前までラップをかぶせ、衛生に十分に注意します。
- スタッフが発熱などで急に収録に参加できなくなる場合に備え、リリーフをスタンバイさせておくことも検討します。

8. (出演者、関係者について)

- 出演者、関係者の方に向けて、BKドラマの新型コロナウイルス感染予防についてのNHKの考え方、対策を説明し、本人の同意を得ます。
- 出演者、関係者が収録に不安を持っている場合は真摯に対応します。またNHKの都合を無理強いすることが無いよう、十分配慮します。
- 出演者に帯同できるマネージャーは原則として1名とします。
- 出演者が衣裳、持道具、マイクなどを着脱する際は、極力自分で行っていただきます。
- 差し入れやお土産は、感染防止の観点からご遠慮いただきます。
- 送迎時における出演者とのタクシーの同乗や、出演者との飲食飲酒は極力控えます。

9. (その他の項目)

- 喫煙コーナーでは運用ルール(人数制限・対面禁止・会話禁止)に従います。
- 食事を取るときにも間隔を守り、食事をしながらの会話は控えます。
- 個別包装されていないスナックや食事は現場周辺に置きません。
- タクシー乗車時は「密」状態は解消できませんが、運転手からの飛沫感染を防ぐ観点から助手席乗車は出来るだけ控え、窓を開けて換気を確保します。
- 原則として、スタジオ見学やロケの収録現場の見学は受け入れません。
- 撮影現場には、スタッフ・キャスト用に、ペットボトル飲料を置きます。利用される方は、必ずマジックで名前を明記し、現場に飲みかけのボトルを放置しないようご注意ください。

- 飲み終えたペットボトルは蓋をしたまま、スタジオや支度場に設置する「ペットボトル用ごみ箱」に、マスクは「使い捨てマスク専用のふた付きごみ箱」に必ず廃棄します。

10. 新型コロナ感染が疑われるメンバーが出た際の対応について

- 出演者は制作スタッフに、スタッフは各部署のチーフや管理職にすみやかに連絡してください。詳細はこのマニュアルの文末の「熱が出たとき、体調がすぐれないときの流れ」を元に行動してください。
- 発熱者が出るなど、万一の場合に備え、各部署は収録に参加する各担当業務者のリリースをあらかじめ考えておき、現場が続行できる場合に備えます。

11. 共用部分、共用機材の消毒について

- 感染症対策責任者は放送総局がまとめた「本部 スタジオ収録における消毒マニュアル」をもとに、技術、美術の管理職や現場チーフとともに各部署の担当を確認して進める。

■上記内容について、疑問点やご提案がある方。また、現場で何か発生した場合には、以下感染対策責任者までご連絡ください。

「カムカムエヴリバディ」感染対策責任者 CP 堀之内礼二郎 090-3766-1979
プロデューサー 葛西勇也 080-2363-7298

(参考) ★熱がでたとき、体調がすぐれないときの流れ

●出演者

- ①朝起きたとき、または現場に入った時点で、37.5℃以上の発熱または風邪の症状あり。
↓
- ②連絡のつく制作スタッフ、演出部スタッフに連絡。その場に待機して指示を待つ。人が多い場所にいる場合は、いない場所に移動して待機。
↓
- ③連絡を受けたスタッフは、FD、制作デスク、制作統括に連絡。
↓
- ④制作統括（不在の場合は制作デスク、FD）は状況を見て自宅（ホテル）待機などを指示。
↓
- ⑤タクシーを利用して自宅 or ホテルへ帰り、待機。
↓
- ⑥症状が継続する場合は、制作統括に連絡の上、医療機関の受診。PCR・抗原検査を受けるかどうか、医師と相談し、制作統括に連絡を入れる。制作統括は総務に経過報告。
↓
- ⑦PCR・抗原検査を受けることが決定したら制作統括に連絡。制作統括は、PCR・抗原検査の結

果を待たずに、総務と連携して行動範囲と接触者を確認。専門業者に依頼して消毒を行う。接触者については原則自宅（ホテル）待機とする。PCR・抗原検査を受けない場合には、発症後8日経過するまで、および解熱後・症状消滅後3日経過するまで収録参加を見合わせる。

↓

- ⑧ PCR・抗原検査の結果、陽性であれば感染症指定医療機関へ入院、もしくは自宅療養となる。現場には保健所が入り、あらためて行動範囲の消毒をする。保健所に濃厚接触者と判断されると2週間の健康観察（自宅待機）となる。

●スタッフ

- ①朝起きたとき、または現場に入って以降、37.5℃以上の発熱または風邪の症状あり。

↓

- ②各担当のチーフ（FD、TD、美術進行、デザイナーなど）に連絡。連絡を受けたチーフは各部の管理職に連絡。本人は現場を離脱し、人がいないところに待機。

↓

- ③連絡を受けた管理職は各部のMP、部長、総務部、制作統括に連絡し、状況を見て自宅待機などの指示を出す。（以下は出演者の場合と同じ流れ）

★制作統括、各部の管理職は各部局のMPや部長、総務部と連携をとり、別紙の「対応チェックリスト」に基づいて行動確認、行動範囲の消毒、接触者のリストアップなどを行う。